

洪水

台風や集中豪雨時の注意報・警報・特別警報は、災害が発生すると予想される場合に発表されます。テレビ・ラジオ・インターネットなどの気象情報に十分注意し、河川の氾濫などによる被害が予想される場合は、万全の対策をとるようにしましょう。

洪水浸水想定区域

計画規模(L1)

河川整備で基本となる降雨を前提とした規模の区域
 想定降雨：城井川流域の24時間総雨量291mm

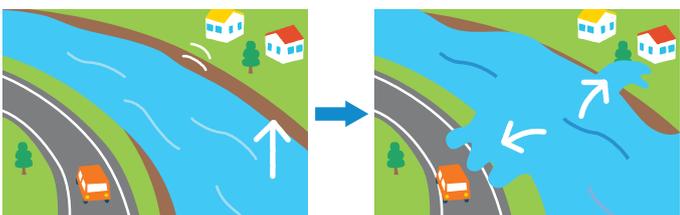
想定最大規模(L2)

想定し得る最大規模の洪水に係る区域
 想定降雨：城井川流域の4時間雨量402mm

氾濫の種類

外水氾濫

川から水があふれて起きる浸水などの氾濫

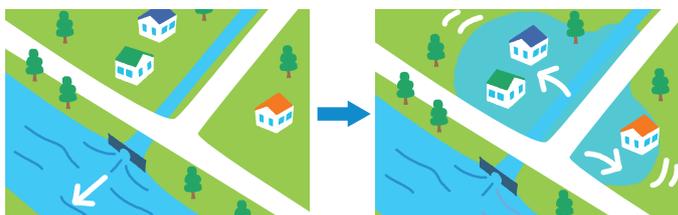


大雨によって川の水が増え、水位が上がり始める。

堤防いっぱいになると、堤防を超えて水があふれたり、堤防が決壊したりして、周辺が浸水する。

内水氾濫

水路などから水があふれて起きる浸水等



平地に降った雨は、側溝や水路などを通して川に排水される。

側溝や水路の排水能力を超える大雨が降ると、側溝や水路からあふれだし、道路や宅地が浸水する。

※内水氾濫発生箇所は、側溝のふたが外れたり、水路等が見えなくなり転落の恐れがあるため、通行の際は注意が必要です。

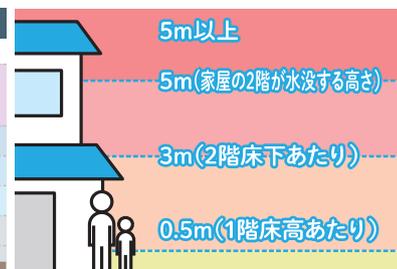
発令基準(水位情報)

河川の水位が上昇して洪水のおそれがあるとき、避難情報を発令します。

築上町では、城井川の水位観測所で定められた基準水位に達するなどの状況から判断します。



浸水深の目安



避難のポイント

長靴は水が入って歩きにくく危険です。運動靴をはき、動きやすい格好で避難しましょう。



増水時は橋を渡らないようにしましょう。



事前の処置をして、畑や田んぼの見回りは控えましょう。



たれ下がった電線には近づかないようにしましょう。



道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(フタがとれている可能性あり)、坂道(水深が浅くても流れが速い)、ため池などが危険です。



鉄道の下など路面が低くなっているところ(アンダーパス)は、水がたまるおそれがあるので、車で入らないようにしましょう。



- 気象庁 気象警報・注意報 <https://www.jma.go.jp/jp/warn/>
- 気象庁 レーダー降水ナウキャスト <https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>
- 福岡県総合防災情報 <http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis/info/top/menu>

雨の強さと降り方

雨の強さ (予報用語)	1時間雨量 (mm)	人の受ける イメージ	人への影響	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上～ 20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	地面一面に水たまりができる。	
強い雨	20以上～ 30未満	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。	道路が川のようになる。	ワイパーを速くしても見つらい。
激しい雨	30以上～ 50未満	バケツをひっくり返したように降る。			高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)。
非常に激しい雨	50以上～ 80未満	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上～	息苦しくなるような圧迫感がある。 恐怖を感じる。			

※大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

※数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

出典:気象庁「雨の強さと降り方」(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/yougo_hp/amehyo.html)を編集して作成

風の強さと吹き方

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物	走行中の車
やや強い風	10以上～ 15未満	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	樋(とい)が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。
強い風	15以上～ 20未満	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。 高所での作業は極めて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。
非常に強い風	20以上～ 25未満	何かにつかまっていなくて立ってられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	通常で速度で運転するのが困難になる。
	25以上～ 30未満			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上～ 35未満	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	走行中のトラックが横転する。
	35以上～ 40未満			住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上～				

※強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

※平均風速は10分間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合などは、3倍以上になることがあります。

※風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

出典:気象庁「風の強さと吹き方」(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/yougo_hp/kazehyo.html)を編集して作成

大雨・洪水・高潮に関する注意報・警報について

次のような場合に注意報・警報が、福岡管区気象台から発表されます。

大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合。 特に警戒すべき事項を標題に明示して、「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」、「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表されます。
高潮特別警報	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合。
大雨警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したとき。 特に警戒すべき事項を標題に明示して、「大雨警報(土砂災害)」、「大雨警報(浸水害)」、「大雨警報(土砂災害、浸水害)」のように発表されます。 雨が止んでも、重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続。
洪水警報	河川の上流域での大雨等によって下流で生じる増水や氾濫により重大な洪水災害が発生するおそれがあると予想したとき。 対象となる重大な洪水災害は、河川の増水・氾濫及び堤防の損傷・決壊、並びにこれらによる重大な浸水害。
高潮警報	台風や低気圧等による異常な潮位上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想したとき。
大雨注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したとき。 雨が止んでも、土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続。
洪水注意報	河川の上流域での大雨などによって下流で生じる増水により洪水災害が発生するおそれがあると予想したとき。 対象となる洪水災害は、河川の増水、堤防の損傷、並びにこれらによる浸水害。
高潮注意報	台風や低気圧等による異常な潮位上昇により災害が発生するおそれがあると予想したとき。

また、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。

この情報は、大雨警報発表中に危険度分布「非常に危険」な場合で、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するもので、大雨を観測した観測点名や市町村等を明記しています。

実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかは、気象庁のホームページで確認できます。

気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/>

このほかにも、様々な観測情報をもとに、短時間で集中的な豪雨をもたらす「線状降水帯」の発生を確認できた場合には、防災気象情報として「線状降水帯」が発生したことを発表します。

※線状降水帯:積乱雲が次々とできて帯状に連なる現象。

注意報・警報の発表基準（令和3年9月30日現在 福岡管区気象台）

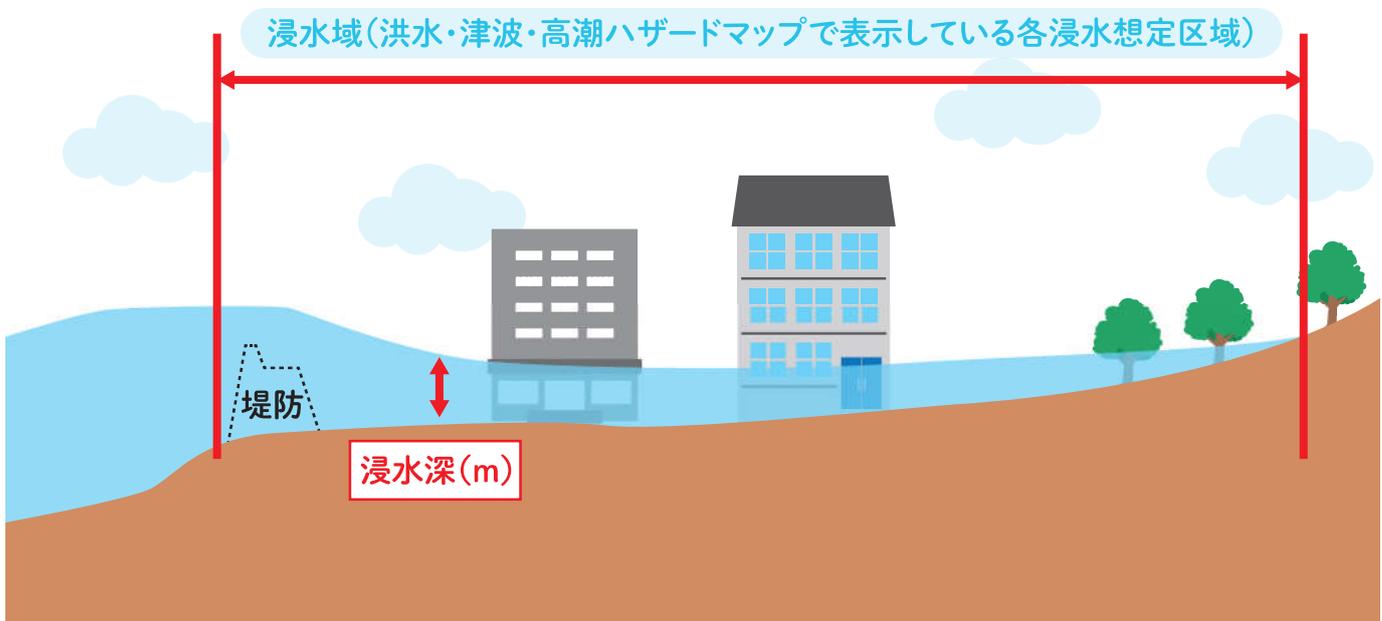
種類	発表基準		
	注意報	警報	
大雨	表面雨量指数基準	10	30(浸水害)
	土壌雨量指数基準	110	156(土砂災害)
洪水	流域雨量指数基準	音無川流域 =4.4, 城井川流域 =11.9, 小山田川流域 =5.2, 岩丸川流域 =8.8, 真如寺川流域 =5.6, 上ノ河内川流域 =4.8	音無川流域 =5.5, 城井川流域 =14.9, 小山田川流域 =6.6, 岩丸川流域 =11.1, 真如寺川流域 =7.1, 上ノ河内川流域 =6.1
	複合基準	音無川流域 =(5,4.4), 城井川流域 =(8,9.5), 小山田川流域 =(8,4.2), 岩丸川流域 =(8,7)	-
	指定河川洪水予報による基準	-	-
強風暴風	平均風速	陸上 12m/s 海上 12m/s	陸上 20m/s 海上 20m/s
大雪	降雪の深さ	平地：12時間降雪の深さ 3cm 山地：12時間降雪の深さ 5cm	平地：12時間降雪の深さ 10cm 山地：12時間降雪の深さ 20cm
波浪	有義波高	1.5m	3.0m
高潮	潮位	2.5m	2.8m
記録的短時間大雨情報		1時間雨量 110mm	

- ※表面雨量指数:短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数です。
- ※土壌雨量指数:降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数です。
- ※流域雨量指数:河川の上流域に降った雨による、下流の対象地点の洪水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨水が地表面や地中を通過して時間をかけて河川に流れ出し、さらに河川に沿って流れ下る量を示す指数です。
- ※複合基準:(表面雨量指数、流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。
- ※記録的短時間大雨情報:数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析したときに、発表する情報です。

洪水・津波・高潮ハザードマップに表示されている浸水深について

洪水や津波、高潮によって、市街地や家屋、田畑が水で覆われることを浸水といいます。

その深さを浸水深といいます。(浸水域内の陸上の各地点で、水面が最も高い位置にきたときの地盤面から水面までの高さ)



洪水・津波・高潮ハザードマップでは、浸水深ごとに着色されています。

はじめに

避難に対する基本的な考え方

【自助】日頃の備え

【共助】日頃の備え

【公助】日頃の備え

心得 避難生活の

避難所一覧

ハザードマップ 総合防災

洪水

土砂災害

津波

高潮

地震

南海トラフ